健康社会

青果物GMV拡大で成長へ

産直卸ドライバーに

農業総合研究所

農業ベンチャーの農業総合研究所（和歌山市）は、重要経営数値とする流通総額（取扱高・GMV）の目標1兆円と、持続的成長に向けた取り組みを推進する。野菜・果物といった青果物のブランディング（付加価値の見える化）による産直卸事業を成長ドライバーに位置づける一方、スーパーなどの小売り量販店に産直コーナー構える主力の農業生産者の直売所事業では、導入店舗・店舗日販の拡大戦略の効果を最大化するため、集荷場拠点での物流効率向上施策を強化する。また、地域青果市場との提携など新規施策も進める。

農業総合研究所は主に農業生産者数9762人、集荷拠点が30都道府県に94拠点の規模。産直卸は農業生産者から直接、青果物を買い取り、パッケージ化と同社によるブランディングを加え、スーパーにPB商品として納入する事業。成長戦略では農業生産者のこだわり、作り方などをピアリングし、消費者の嗜好に合った青果物を厳選。農業生産者情報を提供し安心安全な商品を揃え、青果物ごとの調理レシピ提案、加工品など消費者の購買欲をそそる仕掛けを用意する。組織力の強化と営業・マーケティング人材の拡充を進め、取り扱い店舗、供給力を高める。スーパーの青果コーナーは3兆6000億円市場ともいわれ、同市場でのシェア拡大を狙う。

売り上げの約9割を占める農業生産者の直売所は、農業生産者が経営主体となり販売先や販売価格を決定できる独自の農産物流通プラットフォームを提供する事業。2～3年後を見据えた物流網の拡張に向け、物量の拡大や厳しい品質管理、迅速なオペレーションを可能とする物流プラットフォームの整備・効率化戦略を推進し、GMVの拡大、収益力アップを目指す。具体策として戦略的集荷拠点の新設と統廃合により効率物流体制を構築。その代表事例が移転した「紀の川集荷場」を9月から本格稼働させ、物量の拡大や選果機を新たに導入し、産直卸事業や輸出向け含め機能を強化する。さらにコンテナ出荷のエリア拡大や相場に左右されにくい出荷手数料収入安定化施策も開始し、収益力があり効率の良い事業体質にしていく。

新規施策では仕入れ先、流通両面で業務提携を進める。昨年来、取り組みを活発化し、卸売市場を運営する富山中央青果と組み、同社が得意とする市場外流通での付加価値の見える化による市場機能を充実させる。また、JR東日本とは今年、駅や駅周辺施設などを活用した集荷場の整備・小売店舗を拡大する農産物流通網の共同運用をスタート。5月には提携先の福岡ソノリクの協力を得て物流・加工一体型の神戸センターを開設したほか、コメ卸最大手の神明・青果卸の東果大阪と合弁設立。7月には国分グループと供給・流通で相互活用に関わる提携を行い、持続的成長基盤を整えていく。さらに大規模農業生産者との取引も増やす計画だ。（高橋善治）

集荷場拠点を効率化

植物3Dモデリング装置

民間・大学に導入へ

農研機構とかずさDNA研究所は、植物の形態を高精度に自動で測れる3次元モデリング装置を世界で初めて開発した。

民間企業や大学などの研究機関への導入を図っていく。

同装置は、草丈ミリメートル単位から2・4メートルまでの植物の器官の配置、形状など形態を全周自動計測できる。新たに開発した「CLCFM法」と呼ばれる画像処理技術を採用して、ノイズや欠損のない高精度3次元モデルの自動取得が可能になった。

すでにイチゴやレタス、イネ、ダイズ、スギ、ナス、トマト、パプリカなど、さまざまな大きさの植物で計測を行い、実際と1～2ミリメートルほどの誤差しか生じない高精度測定が実現した。撮影時間は約分間、植物の大きさにもよるが、30分～1時間30分ほどで解析できる。

時系列で測定すれば、植物の成長過程を詳細に追跡することも可能。同装置の活用により、取得したビッグデータと育種研究、デジタル技術を組み合わせ、新たな農業研究分野の構築が見込まれる。

農研機構では、このユニークな装置について24日から東京ビッグサイト青海展示棟（東京都江東区）で開催の「アグリビジネス創出フェア2021」に出展。今後、同装置による応用編として人工気象器内に設置可能な小型装置や屋外対応装置の開発など予定している。

ファンケル 東京家政大

クレンジングオイルとメーク落としの心情

クッション性で違い

筋活動量と脳波で解析

ファンケルは、東京家政大学と共同でクレンジングオイルの物性とメーク落とし時の心情に関連性を確認したと発表した。筋活動量と脳波を用いた研究により、クッション性の高いクレンジングオイルで力をかけずにメーク落としをすることは、メーク落とし後の心地良さにつながることが示唆された。今後もスキンケア製品などを使う際に肌が受ける力や感触が与える心情的な変化の研究を進め、より快適性の高い化粧品の開発につなげていく。

化粧時の行動解析について、筋の動きに着目した研究は決して多くない。ファンケルではメーク落とし中の上肢と頸部の筋活動という新たな指標を用い、これまで明らかにされていないメーク落としという行動の解析を行った。

化粧品の有用性評価はアンケートを用いるのが一般的だが、試験終了後に回答することや個人ごとに差があるなどの課題もある。今回は、メーク落とし中の心情評価に脳波計を使用して経時的に脳波を測定。それから算出された快適性値を心地良さの指標として用いた。筋活動量や脳波は、いずれも脳からの神経伝達によって検出される値であることが関連すると推測し、これらの値について関連性について評価した。

被験者の額に脳波計、頸部と上肢に表面筋電図計の電極を装着し、メーク落とし中の筋活動と脳波を測定。クッション性が異なる2種のクレンジングオイルを使用しメーク落とし時の顔にかかる力に差が生じることを胸鎖乳突筋の筋活動量で確認。同時に脳波測定からクッション性の高いクレンジングオイルは手になじませた時とメーク落とし後に、クッション性の低いクレンジングオイルよりも心地良いと感じることを確認した。

日用品・化粧品各社

開発品がISSに搭載

宇宙飛行士の快適な生活支援

宇宙での快適な生活を支援―。日用品・化粧品各社がコア技術を生かした製品を開発し、2022年以降の国際宇宙ステーション（ISS）への搭載が決まった。開発製品は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の公募テーマから採用されたもので、水や生活物資などが限られたISSで宇宙飛行士の快適な生活をサポートするのが目的。各社は今回の知見を生かし、水不足の国・地域や災害時に使える応用開発も進めていく考えだ。

衣類用洗浄と洗髪シート

花王は、衣類用洗浄と洗髪シートの2品が採用された。衣類清浄シートは洗浄液をあらかじめ含浸させた不織布で、水を使用することなく汚れや臭いを拭き取れる。洗髪シートは、洗髪用の洗浄液をあらかじめ含浸させた凹凸の立体形状を有する不織布シート。凹部で頭皮マッサージをしながら頭皮や根元の汚れを拭き取ることができる。

衣類用洗浄シート「スペースランドリーシート」

すすぎが簡単なハミガキ

ライオンは「すすぎが簡単なハミガキ」を開発。宇宙空間での歯磨きは水ですすぐことが難しいため、歯磨きを飲み込むか紙に吐き出すなど不快感をともなうケースがあった。今回開発した製品は、一般的なペースト状と異なる泡状タイプの歯磨きで、すすぎが簡単にできるという。吐き出しやすくするため泡立ちを抑えており、口の中にも残りにくい特徴がある。

すすぎが簡単なハミガキ

全身用、頭皮用ペーパー

マンダムは全身用、頭皮用のペーパー2品の搭載が決まった。同社独自の「Kai-tech技術」を応用することで、アルコールフリーながら心地よい清涼感を実現した。今回の製品開発で得た知見は、アルコール使用に制限がある環境や、肌へのアルコール使用が苦手な人にも役立てていく考えだ。

一方、JAXAの公募テーマではないものの、ポーラ・オルビスホールディングスは、ANAホールディングスと協力し「宇宙ライフを美しく快適に」をコンセプトとした化粧品の開発も進めている。商品化は2023年の予定だ。将来的な民間宇宙旅行のサービス化もにらみつつ、宇宙という極限状態を想定した製品開発を新たな価値提供へつなげていく。

スペースシャワーペーパー（ボディ用）

タベルモ

たんぱく質代替スピルリナ

飲食店向け提案強化

バイオベンチャー企業群、ちとせグループで食用スピルリナの製造・販売を手がけるタベルモ（川崎市高津区）は、飲食店向け提案活動を強化する。栄養価が高く有望なたんぱく質代替として知られるスピルリナだが、順調に販売を伸ばしており、今年は前年比約3倍のペースで推移しているようだ。販促活動も展開し、消費者認知を拡大させていく。

タベルモは、10月下旬から飲食店向けに「食べるSDGs」と題したキャンペーンを開始。提携した飲食店は同社スピルリナを使ったメニューを販売する。消費者は対象メニューを注文することでさまざまな特典がもらえる仕組み。すでに都内のスムージー専門店など複数の提携先はあるが、今後も増えいく見込みだ。

同社は無味無臭で栄養価が高いスピルリナの利点を生かし、過熱乾燥させない「生スピルリナ」を世界で初めて販売。2019年はブルネイの現地子会社に新工場を設立し、年間生産能力は最大約1000トン。スピルリナの製造では世界屈指の規模を誘っている。

飲食店での採用が進むスピルリナ

霧島酒造

CO2排出ゼロめざす

サツマイモで発電 EV社用車を導入

霧島酒造は24日、サステナブルな社会の実現に向け、2030年度までに工場・事務所のCO2排出量を実質ゼロにする宣言を発表した。焼酎粕や芋くずなどさつまいも由来のエネルギーでの13年度比で50%削減を目指す。また、サツマイモ発電による電力を主電源とする社用車を「さつまいもEV eーimo（イーモ）」と名付けて4台導入し、都城市の災害時避難所支援にも活用していく。

同社では、今後の持続可能な焼酎造りを目指すプロジェクト全体を「KIRISHIMA SATSUMAIMO CYCLE～さつまいもを、エネルギーに。」とし、このもとで①22年から余剰バイオガスの自社供給量を増加②30年度までにサツマイモ発電の売電か

さつまいもEV eーimo

ら自社利用に切り替え③30年度までに社用車約130台を電動化④蒸留温排水利用によるハウス栽培などへのチャレンジすることに取り組む。

さつまいもEV eーimoは、さつまいものいも"と、電気自動車をイメージさせる"e（電気）"と"mobility（乗り物）"を掛け合わせたネーミングで、本田技研工業のEV車「Honda e」の車体全面にKIRISHIMA SATSUMAIMO CYCLEのイラストのラッピング。本社のある都城市を中心とした圏域を走行することで、地域にも親しまれるように同社の取り組みを発信していく。

四国地方発明表彰を受賞

ライオンがトリガー式スプレーヤーで

ライオンは、浴室用洗剤に使用したトリガー式スプレーヤーの特許で、2021年度四国地方発明表彰における「日本弁理士会会長賞」と「実施功績賞」を受賞した。同技術は浴室用洗剤「ルックプラス バスタブクレンジング」（写真）に採用している。噴霧量を従来の1ミリリットルから2ミリリットルと倍にすることで、一度の噴霧で広範囲が覆えるスプレーパターンを考案。使用時はトリガーレバーに指が届きやすいようストロークは変えずシリンダー径を大きくし、噴霧量を確保した点なども評価された。

レーザーマーキングでラベルレス

アサヒ飲料が限定商品販売

アサヒ飲料は、リコーのレーザーマーキング技術を使用した完全ラベルレス商品「アサヒ 十六茶PET630mlダイレクトマーキングボトル」を12月21日からアマゾン限定で1200箱をテスト販売する。リコーのレーザーマーキング技術はボトルに直接印字でき、同技術を使用したラベルレス飲料商品は食品業界で初めて。

レーザーマーキング技術はレーザーにより、ペットボトルのでく表面のみに加工を施すことで描画する技術でインクなどの不純物がないため、リサイクル性を低下させることなく必要な情報が表現できる。従来のラベルレス商品に表示に使用していたタックシールやネックリングなどを使用しない、さらにエコでラクな完全ラベルレス化を実現する。

アサヒ 十六茶PET630mlダイレクトマーキングボトル（右）

国際医薬品開発展 2022
Bring innovation in the pharmaceutical industry

20 YEARS
CPhI japan®
icse P-mec bioLIVE InnoPack FDF nex
20 - 22 April 2022 | Tokyo, Japan

出展社募集中
ブースが埋まり次第締切となりますので、お早めにお申込みください。

2022年4月20日(水) 21日(木) 22日(金)
東京ビッグサイト 東ホール
www.cphijapan.com　cphi japan

ライフサイエンス業界関係者が集結する業界最大級の年次イベント

CPhI japan®
CPhI Japan 2022
国際医薬品原料・中間体展
原薬 中間体 添加剤

icse
ICSE Japan 2022
製薬業界受託サービスエキスポ
受託研究 受託開発 受託製造

P-mec
P-MEC Japan 2022
医薬品原料 機器・装置展
研究装置 製造機器 製造設備

bioLIVE
bioLIVE Japan 2022
バイオファーマジャパン
創薬、開発支援 受託製造 機器・装置

InnoPack
InnoPack Japan 2022
DDS・医薬品包装技術展
DDS 医薬品一次包装

nex natural extracts
NEX Japan 2022
生薬・漢方素材エキスポ
原料 受託製造 機器・装置

FDF
FDF Japan 2022
FDF最終製剤エキスポ
最終製剤ライセンス

Pharma IT & Digital Health Expo
Pharma IT & Digital Health Expo
ファーマIT&デジタルヘルス エキスポ 2022
デジタルヘルス 研究 / 開発 セールス/マーケティング

FINE CHEMICALS JAPAN
FINE CHEMICALS JAPAN
ファインケミカルジャパン 2022
素材 最新技術 受託製造

主催 informa markets インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社
お問い合わせ 運営事務局／インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-8-3 神田91ビル TEL: 03-5296-1020 FAX: 03-5296-1018 E-mail: promotion@cphijapan.com